

「ガールスカウト・丸和 早生樹の森」植樹祭（第2回）

林野庁 関東森林管理局 千葉森林管理事務所

国民参加の森づくり活動の取り組みとして、令和3年度に君津市戸崎国有林に設定されたモデルプロジェクトの森において、令和4年5月29日（日）に第2回目の植樹活動が実施されました。

「ガールスカウト・丸和早生樹の森」は、森林総合研究所林木育種センター、ガールスカウト千葉市協議会及び有限会社丸和建材社と関東森林管理局との間で、低コスト・短期間で成長が見込める早生樹の植栽・生長調査等を通じて関東エリアでの早生樹の森林造成の可能性を追求するなどを目的として令和3年4月26日に協定が締結されました。

当日は、ガールスカウトから30名のスカウト（36名の保護者）、丸和建材社から精鋭42名の社員をはじめ林木育種センター、オブザーバーである千葉県森林研究所の研究者も参加し、総勢121名で協力してコウヨウザン、センダン、ユリノキの早生樹種658本を植樹しました。

植樹にあたって、事前に丸和建材社が地拵や獣害防護柵の設置、林木育種センターによる試験植栽本数毎の植樹間隔の点付けが行なわれており、植樹をスムーズに行うことができました。特にコウヨウザンは葉が鋭く硬いため、ガールスカウトの子供たちは手袋をつけてもチクチクする葉に奮闘しながら一生懸命植えていました。



開会式



コウヨウザンポット苗の植樹説明



作業（ガールスカウト）



作業（丸和建材社）

怪我も熱中症も見られず、植樹を無事に楽しく終えることができ、ガールスカウトの子供たちからは、「数年後にまた来たら自分の背丈を追い越されているのだろうか」、植えた木がどのように育つのかを期待する声や、「クワが重くて大変だったけどきれいに植えることができた」、「楽しかった。またこのような機会があれば参加したい」などと、植えた木がどのように育つのかを期待する声を多く聞きました。

今回の取り組みを契機に、森林のもつ公益的機能の発揮や森林・林業・環境にさらに多くの関係者が関心をもってもらえるよう、国民参加の森づくり活動をこれからも取り組んでまいります。



植樹後の達成感に満ちた集合写真